

6. 宍道湖・中海環境データベース研究会／検討会とプロトタイプ

宍道湖・中海環境データベース検討会

(事務局：島根大学 汽水域研究センター 都筑良明、中山大介、倉田健悟、國井秀伸)

1 宍道湖・中海環境データベース研究会、検討会²⁾

平成 17 年度前半に勉強会的な位置付けの宍道湖・中海環境データベース研究会（以下、「研究会」とする）を開催し、後半からはデータベース構築を目的とする宍道湖・中海環境データベース検討会（以下、「検討会」とする）を開催している。研究会、検討会の参加者は、国、県(島根、鳥取)、大学の関係者 20 数名である。

2 プロトタイプのコンテンツ³⁾

プロトタイプを構築した。データベース作成に際して、保有するデータの電子化などをデータ保有者に依頼した。原稿作成時点で、プロトタイプは検討会メンバーに限定的に公開しており、今後、一般公開に向けて整備、検討を進めていく予定である。データの保有者、アクセス方法、利用制限などの情報を分りやすく示すため、メタデータを整備した。

流域情報は、①社会統計情報（人口分布、戸数分布）、②土地利用（水田の耕地面積、林種別）、③流域管理（小流域別流域表示、土地利用）などである。

湖内情報は、①水質情報、②プランクトン情報、③湖岸情報である。水質情報は、1960 年代以降の水質情報を提供する。数値情報は現段階では公開せずに、グラフとした。プランクトン情報は、1980 年代からのデータを Microsoft® Excel®形式でアップロードしており、ダウンロード可能である。湖岸情報の元となるデータは 2003 年春に、宍道湖湖岸一周を船上から撮影したデジタル画像である。この画像データの約 600 区間を GIS を用いて地図上に記載し、湖岸属性を付加した。

文献情報は、相崎 (2000)¹⁾ の中海・宍道湖文献目録をプロトタイプとし、相崎教授のホームページにリンクした。

3 今後の方向性

コンテンツを充実させるとともに、クリアリングハウスメカニズム、カタログサービスなどのアーキテクチャの活用をその是非も含めて議論しながら進める予定である。

謝辞 本研究は、島根大学プロジェクト研究推進機構重点研究部門／汽水域の自然・環境再生研究拠点形成プロジェクトの研究活動の一環として行った。本研究の一部は、東京大学空間情報科学研究センター(CSIS)との共同研究として行った。本研究の一部は、島根県の諸機関（中山間地域研究センター、環境生活部環境政策課、保健環境科学研究所、農林水産部森林整備課）にお世話になった。

参考文献・資料

- 1) 相崎守弘 (2000) 中海・宍道湖文献目録、LAGUNA (汽水域研究), No.7, 85-105.
- 2) 都筑良明・中山大介・國井秀伸 (2006a) 宍道湖・中海環境データベース研究会の報告、第 40 回日本水環境学会年会、仙台市
- 3) 都筑良明・中山大介・國井秀伸 (2006b) 宍道湖・中海環境データベースプロトタイプ、LAGUNA(汽水域研究) (投稿中)

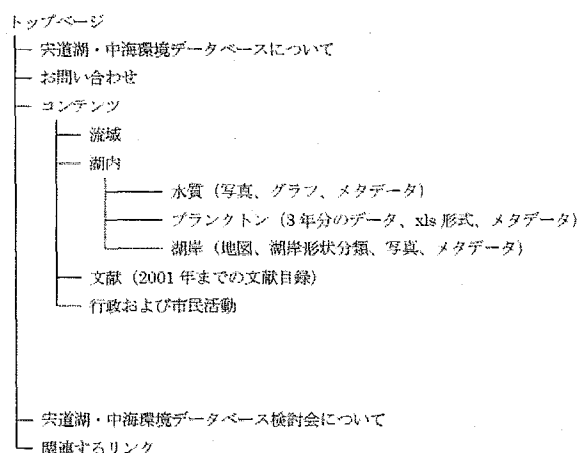


図 1 プロトタイプのサイトマップ

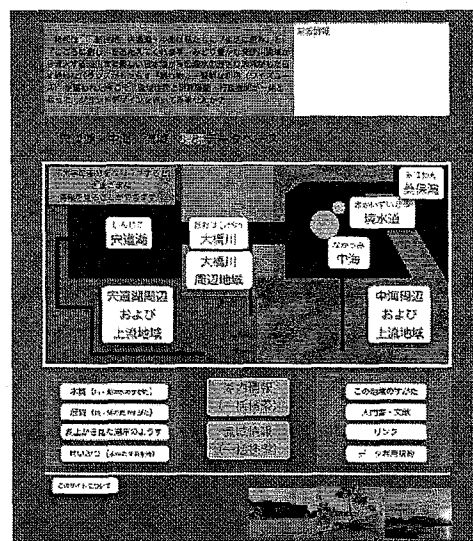


図 2 将来イメージの一例